

学びたくても学べない

私は海外の教育・賃金格差に着目します。なぜこれに着目したか、それは最近の出来事にあります。先日まで、私は米軍基地の高校に通っている女の子と英会話のレッスンをしていました。ある時の会話の中で「日本語の勉強をしている」という話になりました。彼女は「漢字や似ている意味の言葉などが難しいけど楽しい」と言いました。レッスンが終わった後、そのことについて考えました。

まず問題に着目します。海外には学びたい、勉強したいという子供がたくさんいます。しかし、家の仕事を手伝わなければならなかったり、不公平な貿易のせいで賃金格差ができお金がなかったりと学びたいことを学びたいだけなのにいろんな問題があります。「学びたくても学べない」これによって世界には7億5000万人の成人が読み書きできません。その3分の2を女性が占めています。これは男女格差や経済格差なども関わってきます。このままだと男女格差を広げることにもなりかねません。ではなぜ学べないのか、その原因として例をあげます。例えばカカオの生産と輸出です。主な生産はアフリカ大陸で行われています。しかし、人手が足りず、子供が働かなければならないのです。それによって学校で勉強ができません。子供たちは勉強がままならないまま大人になり、良い仕事につけず、不公平な貿易をされていることを知らずに生産を続けていきます。この悪循環は格差社会があるからできている問題です。

私たちができるのは少し高いですが公正に取引された商品を購入して少しでも彼らを支援することです。その少しずつの努力が誰かのためになるかもしれません。この公正に取引された商品を購入というのは公正な取引、フェアトレードという貿易で輸入された商品のことです。

SDGsという2030年までに達成する国際社会共通の目標で、誰一人取り残さないこと目指しています。これには17個の目標があります。その4番目は「質の高い教育をみんなに」です。日本はこれを達成しています。小学校から中学校を義務教育としているからです。しかし達成していない国ももちろんあります。それは世界のことが他人事になっているからです。芥川龍之介の作品、羅生門のようです。羅生門は近代化していき生活が西洋化していく大正時代に作られました。芥川は近代化していく世の中を平安時代の世の中に例えて書きました。生活様式が変わり、完全に近代化したように思えます。しかし考え方は前近代のままのところがあります。つまり近代と言っても外面だけで蓋を開けてみると前近代ということです。また主人公は他者性がなく自分が良い思いをしていれば良いという考えで逃げていきました。これはSDGsでもいえます。みんなで協力して誰一人取り残さないと言っています。しかし蓋を開けてみるとまだ達成していない国があります。つまり、まだ外面だけで問題は残っているのです。実際2030年までに貧困問題に終止符を打つめどは立っていないと国際連合広報センターでのホームページに書かれています。つまり、誰も気にすることなく時が進んでいっている、また何か考えがあっても行動に移せていない、口だけで現実から逃げているのです。これでこの問題が解決するわけがないと思いませんか。目標までに終わらなくても、行動に移して達成していくべきです。

次に日本語を学んでいて難しいという話に着目します。日本は他の英語などの言語と違って日本語という「不思議な言語」を使って話しています。なぜ不思議なのか、例を出すと英語は自分のことを指すのに使うのは「I」だけです。それに対して日本語は「私」、「俺」、「僕」などと自分を指す言葉がたくさんあります。他にもカタカナや漢字などもあります。このように日本語は他の言語と違って自由です。だからこそ難しいのです。テレビでも取り上げられていることも多いですが、アニメや漫画が海外でとても人気で、それにより日本語、日本に興味があって勉強している外国人の方は年々増加しています。また教師も増加し続けています。しかし私が思ったのは日本人の教師が目立たないという事です。私はそれを受けて日本語教師という職業に興味を持っています。日本で授業を受けたくても日本に行くお金が賃金格差でない人がいるのは事実です。そんな人たちにも日本のことを知ってほしいと思っています。日本語のことを1番知っているのは日々の生

活で常に使っている日本人だと思います。だからこそ教えられる正しい日本語があると思うのでそれを伝えるべきだと思います。

そこで自分たち学生とは違い、社会のために行動している人の話も聞いてみたいと思い、横須賀市議会議員の竹岡力先生に依頼してお話を聞くことができました。そこで、世界では学校に行けない子供がいて、SDGsなどの目標が立てられています。もし日本だけでなく世界で活躍することになったらまずどんなことをしたいですか。と聞きました。すると竹岡先生は「学ぶことの大切さを伝えたい。仮に学校がなくても、他の国ではこんなことが今話題になってるとか、これからこんなことが可能になるとか、伝えられる人さえいれば勉強になると思う。色んな分野の伝播師を定期的に派遣する仕事とか。」とおっしゃいました。私は日本語という分野に興味があるのでもし実現したらこのような活動に参加したいなと思いました。

また横須賀の教育についても知りたいと思い、竹岡先生とお話をさせていただく中で、先生の政策にあるネイティブスピーカーを複数人、学校に配置とあったためその狙いについて聞きました。先生は「現状横須賀ではALTの人が時々英語の授業にやってくる、というだけの状態になっていて、なかなか実践的な英語の習得ができないで教育課程が終わってしまいます。この状況を変えるためには、横須賀にたくさんいるネイティブの人を上手く活用できるのでは？と考えて提案している。」とお答えしてくれました。また、「そんなに簡単に市で人を採用できるわけではないので、例えばオンラインのレッスンで補うなどの方法もあるなと最近は思っている。」とおっしゃいました。こうやってただ政策を提示するだけではなく、これを実行するためにはこういう方法もあると考えられるのはすごく良いと思いました。オンラインレッスンは自分も今やっていて成長を感じられているのでこれが普及したら英語力の向上も可能だなと思いました。

私がこの職業に興味を持てたのは世の中に格差社会の問題や教育の問題などがあったからです。これで私がありがたうと言ってしまうまでいいのでしょうか。もし解決しても私が日本のことを伝えたいという考えは変わりません。解決に向けてSDGsなど、ただ目標を立てるだけじゃなくて行動に移していくべきなのではないのでしょうか。今回は竹岡先生のお話を具体例にしましたが、こんな行動ができたらいとまず考えることが必要だと思います。まだ世界に出れなくても、自分にできることを見つけていくべきだと思います。

参考文献

- ・SDGs | 目標4 質の高い教育をみんなに | すべての課題解決の為に
https://sdgs-support.or.jp/journal/goal_04/
- ・2018年度海外日本語教育機関調査結果(速報値)
<https://www.jpf.go.jp/j/about/press/2019/dl/2019-029-02.pdf>

参考インタビュー

横須賀市議会議員 竹岡力先生

※竹岡力先生の話は小論文に合わせて、常体にしたりと一部変更していますが内容に変更はありません。